



## 導入事例

# 追手門学院大学の場合

1966年、大阪府茨木市に開設された追手門学院大学。LMS(ラーニングマネジメントシステム)をいち早く取り入れ、学生たちの学修環境の整備に力を注がれている大学です。その中で、2020年度より動画配信システムとして Mediasite システムを導入。新型コロナウイルスの影響もあり初年度より非常に多くのご利用、視聴状況となっております。そこで、システムの選定・運営管理をご担当されている情報メディア課の方々に具体的な活用状況を伺いました。

## 操作性の良さと他システムとの連携力などから、最適な動画配信システムとして選択。

～ Mediasite Video Platform(MVP)を全学で導入し積極活用～

### 主体的な学びのスタイルを提唱

本学では、時代の要請に応えるべく、学院全体の教育概念として「WIL (Work-Is-Learning)」を提唱し実践を推進しています。「行動して学び、学びながら行動する」という学修様式で、主体的に学び協働して問題解決ができる人材育成を目指しています。その一環として、討議やフィールドワークなどを中心とした学びのスタイルを取り入れることにも積極的です。

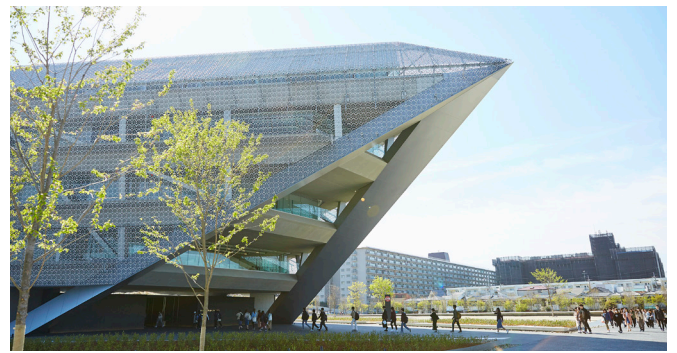
学生に時間を有効活用してもらうために1コマ 90 分の授業時間を 2021 年度から 105 分に延長、その代わりに授業期間を半期 15 週から 13 週に短縮。原則として定期試験期間を廃止している点なども大きな特徴でしょう。

こうした独自の学びのかたちを提案する中で、積極的に LMS も活用してきました。しかし、2019 年に 1 年生の BYOD 化 (私的デバイスの持ち込み)、さらに学生や教員が使うポータルシステムを入れ替えるなど大きな転換期を迎えました。また、今後の学内システムを考えた時に、現状では対応しきれないであろうことを考慮し大幅な見直しを行いました。

検討を重ねる中で、Mediasite は動画配信サービスとして以前から把握していましたが、教育総合展 (EDIX) 東京で最新のものに触れ、導入へと至りました。

### WebClass を動画配信に活用

Mediasite 導入前は、他社システムで簡易収録してアップロードした動画を、LMS への HTML 埋め込みにより配信していましたが、その利用は限定的でした。そこで、安定性、機能性、使いやすさなどの点で優れたインターフェイスである Mediasite を選定しました。2020 年 4 月から動画管理、配信システムの Mediasite Video Platform (MVP) を全学で導入しています。加えて、ソフトウェア型収録ツールの Mediasite Desktop Recorder (MDR) を導入しました。利用初年度は試験的に



各種の建築賞を受賞した総持寺キャンパスの大学棟「アカデミックアーク」外観



学生はキャンパスのどこにいても動画にアクセスし、視聴することが可能

10 ライセンス、次年度は全教職員が利用できる包括ライセンスにて、全教員が動画作成、配信できる環境を整備しました。

具体的には、日本データパシフィック(株)の WebClass (LMS) と、LTI ツールを利用してシステム連携し、その中で動画配信に特化した Mediasite が活用されています。

主に教員は、ご自身の映像 (+ 音声) とデスクトップ映像 (PowerPoint 等) の 2 レイアウト収録が可能な、MDR (収録ソフト) にて授業収録を行っています。そして、収録した動画の URL を WebClass へ登録するだけで学生へ配信でき、視聴履歴も取得することができます。教員の各 PC 端末へ MDR をインストールすると、ク



学校法人 追手門学院  
情報メディア課 課長代理  
元木 伸宏 様



学校法人 追手門学院  
情報メディア課 主任  
船本 洋 様



学校法人 追手門学院  
情報メディア課  
岡野 圭一郎 様

教育、各種イベントまでさまざまな使われ方をしています。

特に、資格講座などは好きな時に、見たい箇所をリピートして見られるなどの使いやすさが好評です。また、オープンキャンパスでは、各種説明会等にも動画を活用し、オンラインによる対応も可能となっております。各高校にアカウントを発行しお渡しすることで、高校生にとっても気軽に情報を得られるのは魅力だと思います。

利用方法に関しては、情報メディア

リックひとつで動画収録から配信までできるというイメージは定着していると思います。

一方、学生及び全教職員は、入口が WebClass に統一されたので、動画作成ページや動画視聴ページへシングルサインオン (SSO) でアクセスでき、大変利用しやすくなったと思います。

### 映像制作から配信まで

導入にあたって教員には情報メディア課でマニュアルを作成し、IT 関連が苦手な方には個別にサポートしました。概ね、操作が簡単で使いやすいと好評です。2 年目からは、新任の教員に情報メディア課のホームページ上の利用マニュアルや、教員向け説明会などで利用方法をお伝えしています。現在は、MDR にて教員ご自身の顔と PC 資料の 2 画面動画を作成するケースがほとんどのようです。学生にとっても、多画面のため対面授業のような雰囲気がある良いのではないのでしょうか。

2020 年 4 月の利用開始後、すぐに多くの視聴がありました。2020 年度は 1 年間で約 7,800 名中 7,655 名の視聴者数、734,011 回の視聴数でした。また、2021 年度は 4 月から 8 月末までのデータですが、7,592 名の視聴者数、439,020 回の視聴数でした。

導入後、すぐに新型コロナウイルス感染症が拡大し、2020 年度春学期の授業は全てオンラインとなりました。そのような状況下であったため視聴者数の増加に繋がったと思われます。

教員も、コロナ禍前は動画コンテンツの活用は必要な人だけが行っている感じでしたが、コロナ禍以降ではほぼ全教員が活用していると思います。動画数は、2020 年度の 1 年間で 7,155 コンテンツ、2021 年度は 4 月から 8 月末までで 10,855 コンテンツを数えます。

これらの動画視聴履歴は、今後データ分析を行い、学生の学習効果の向上や行動の可視化につなげていきたいと思っています。

### 授業以外でも幅広いニーズに対応

現在、全教職員が Mediasite を利用できる環境ですので、授業以外でも幅広く動画配信を行っています。教学企画、人事、広報といった各部門での利用や、各学部でのオリエンテーション、各種の研修などにも活用。また、インターンシップや就職情報サイトなど就職支援の分野、その他に学長講話や学部長挨拶、特別講義、入学前

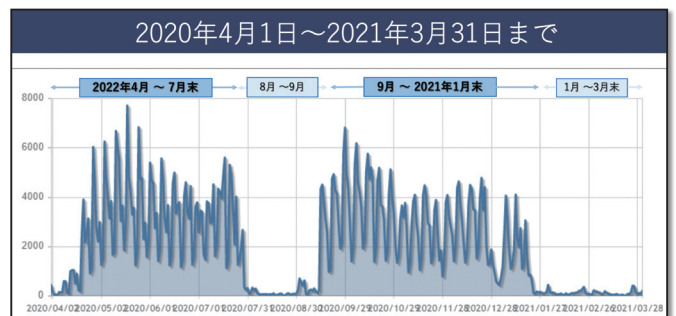
課にて資料やマニュアルを整備し公開するとともに、教職員からの問い合わせは情報メディア課が窓口となりメディアサイトに対応してもらっています。システム管理をメディアサイトに一任することでサポートに関しても安心です。

### より高品質、高度化する動画配信を目指して

コロナ禍でオンラインの良さがわかり、今後は対面授業、オンライン授業、オンデマンド授業というようにそれぞれの長所を生かしハイブリッドな形で学生は学習を進められると思います。現在、多くの動画がアップロードされ、サーバー容量が気になるところですが、教員の方々にはどんどん資料動画をアップいただき、学生にはそれを積極的に利用してもらいたいですね。そこは最新の Mediasite システムにバージョンアップすることで解決していけると 생각합니다。

これから動画配信はより高品質なものを目指していくようになると思います。今後は、一部のコンテンツには字幕を表示することも必要です。加えて、コンテンツを見ないと回答できないことを小テストで作問するなどのアイデアも出てきています。教員の中には、ご自身で編集をして映画の一部を盛り込んだり、凝った動画をつくる方もいらっしゃると思います。より質の高い動画作成を目指している方も少なくないので、「こうした編集はできないですか?」という質問をいただくことがあります。現状では、簡単な編集は可能ですが、今後は高度なシステムへのバージョンアップも視野に入れていきます。

また、SAML 認証、LMS とのより一層の連携拡大は不可欠ですね。そして、視聴分析やデータ分析を行い、学生の学習効果の向上に役立てたいと思います。



2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日までの視聴回数のデータ  
2021 年 5 月 1 日現在、「学部学生数 7,916 名」「大学院学生数 70 名」